

## 吾妻山の火山活動解説資料

仙台管区气象台  
地域火山監視・警報センター

吾妻山では、低周波地震の発生頻度が高まっているなか、5月11日に火山性微動が発生しましたが、その後火山活動の活発化は認められていません。

### 【防災上の警戒事項等】

大穴火口や燕沢火口列周辺では、火山ガスの噴出が認められており熱活動も継続していることから、火山灰や高温の土砂、熱水等が突発的に噴出する可能性があります。また、硫黄平橋周辺でも火山ガスに注意が必要です。地元自治体の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

<噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続>

### ○ 活動概況

#### ・地震や微動の発生状況（図4、図5-②～④）

低周波地震の発生頻度が2月頃からやや上がり、4月12日からさらに上がっていましたが、5月頃からやや低下しています。火山性微動は11日に1回発生して以降は観測されておらず、火山性地震の増加も認められていません。

#### ・噴気など表面現象の状況（図1～3、図5-①）

17日に実施した現地調査では、大穴火口周辺の地熱域の状況に大きな変化は認められませんでした。監視カメラによる観測でも、大穴火口付近及びその周辺の噴気の状況や地熱域に特段の変化は認められません。

#### ・火山ガスの状況（図5-⑦）

17日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量<sup>1)</sup>は1日あたり約80トン（前回2022年11月10日、約30トン）と、前回と比べてやや増加しました。

1) 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量観測は、二酸化硫黄が紫外線を吸収する性質を利用し、噴煙を透過した紫外線の吸収量を測定することにより二酸化硫黄の放出量を求めます。

---

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。

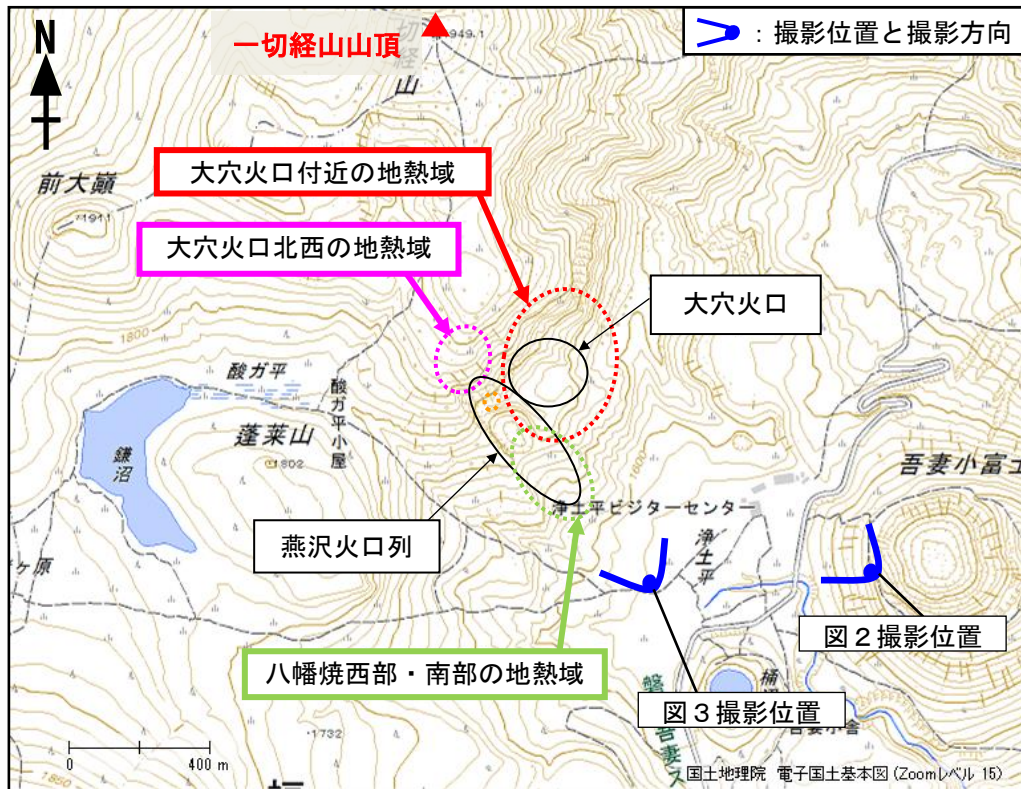


図1 吾妻山 大穴火口周辺の噴気と地熱域の分布及び写真と地表面温度分布撮影位置、撮影方向

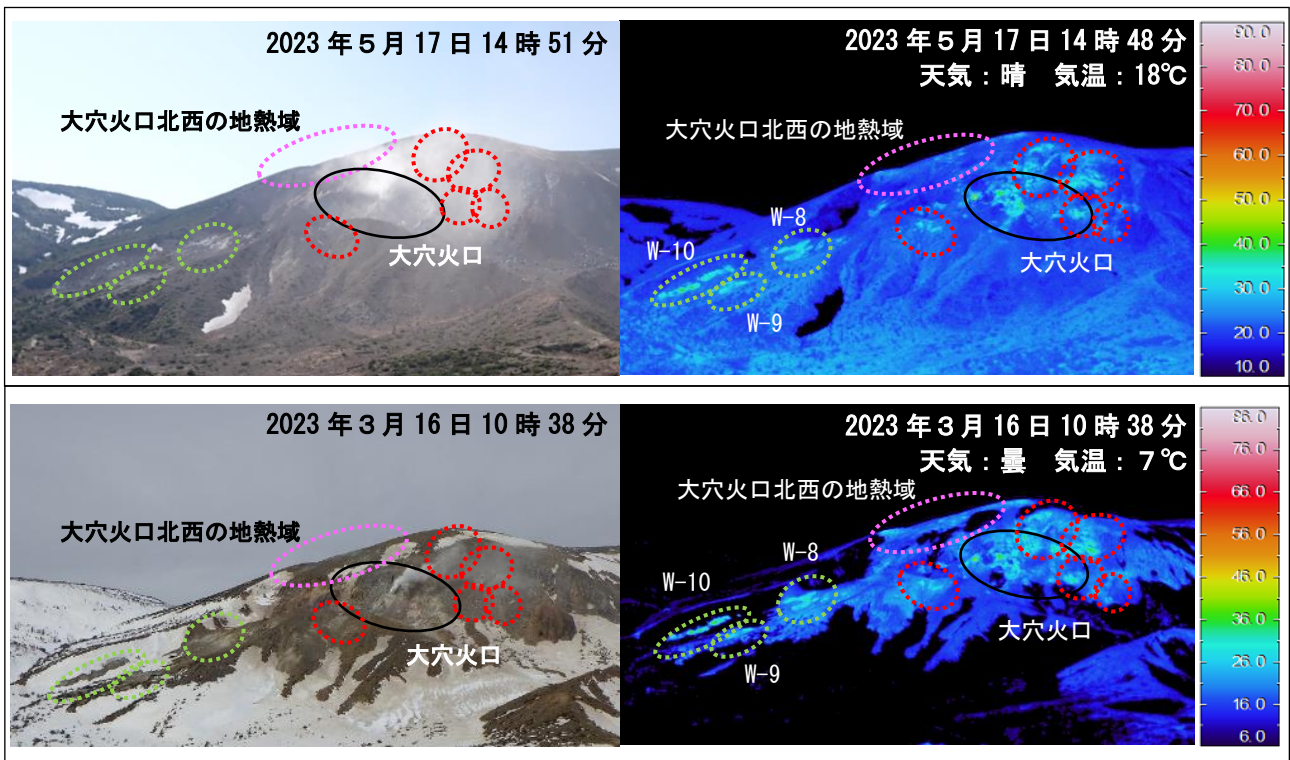


図2 吾妻山 大穴火口及びその周辺の状況と地表面温度分布

・図中の破線の色は、図1の破線の色に対応します。  
※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

17日に実施した現地調査では、前回（3月16日）と比較して、噴気・地熱域の状況に大きな変化は認められませんでした。

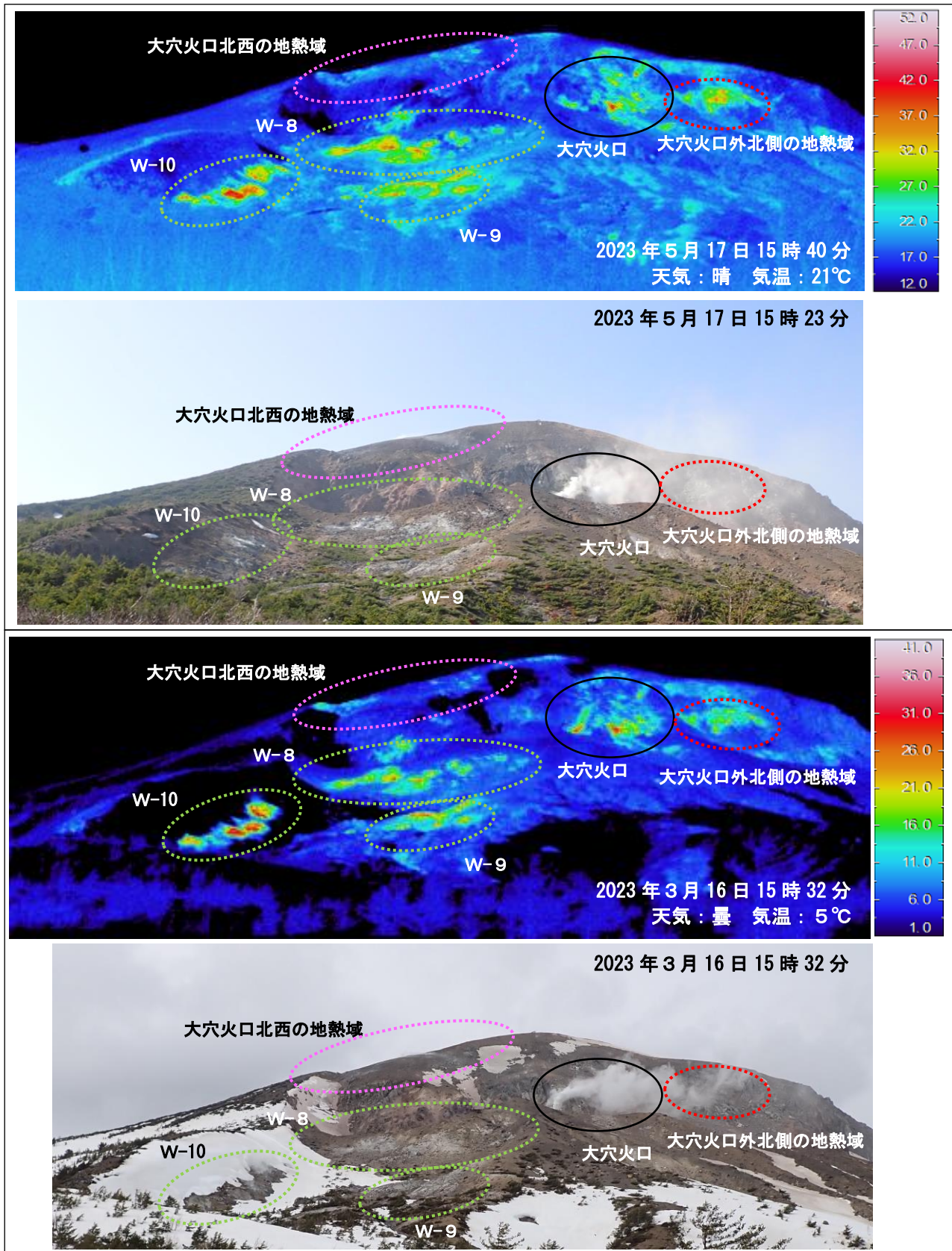


図3 吾妻山 大穴火口周辺及び八幡焼の状況（下）と地表面温度分布（上）

・噴気や雲のため、一部の地熱域が隠れています。

※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

17日に実施した現地調査では、前回（3月16日）と比較して、噴気・地熱域の状況に大きな変化は認められませんでした。

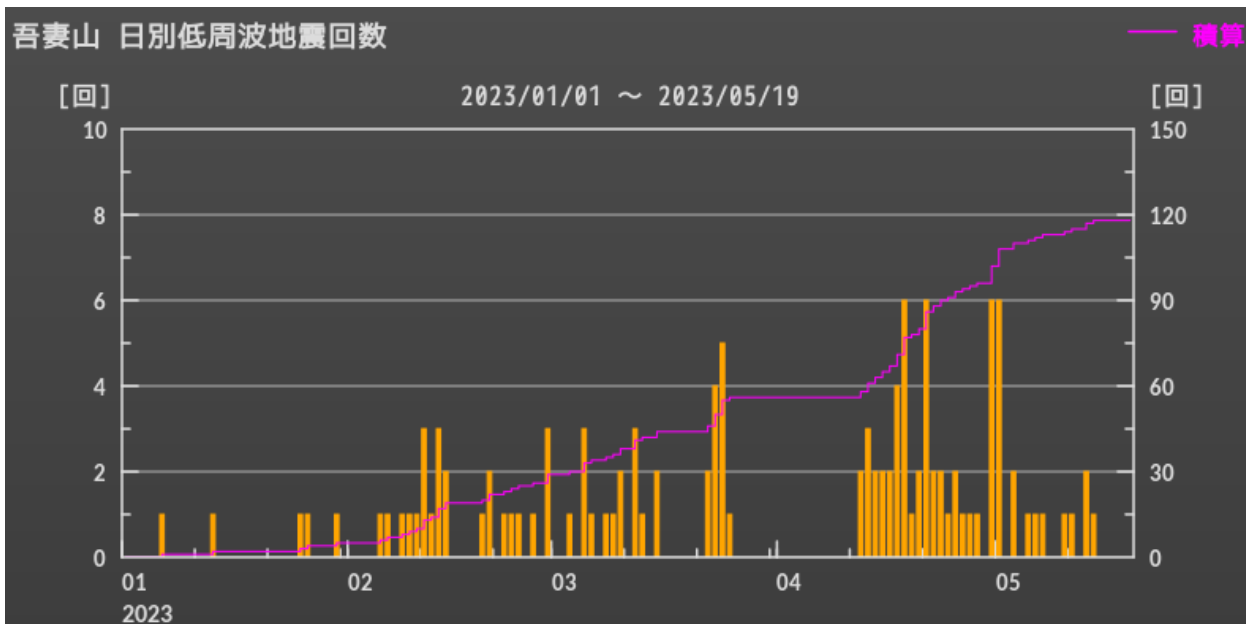


図4 日別低周波地震回数（2023年1月～5月19日15時）

低周波地震の発生頻度が2月頃からやや上がり、4月12日からさらに上がっていましたが、5月頃からやや低下しています。4月20日から本日（19日）15時までの30日間の低周波地震の総数は40回となっています（速報値）。

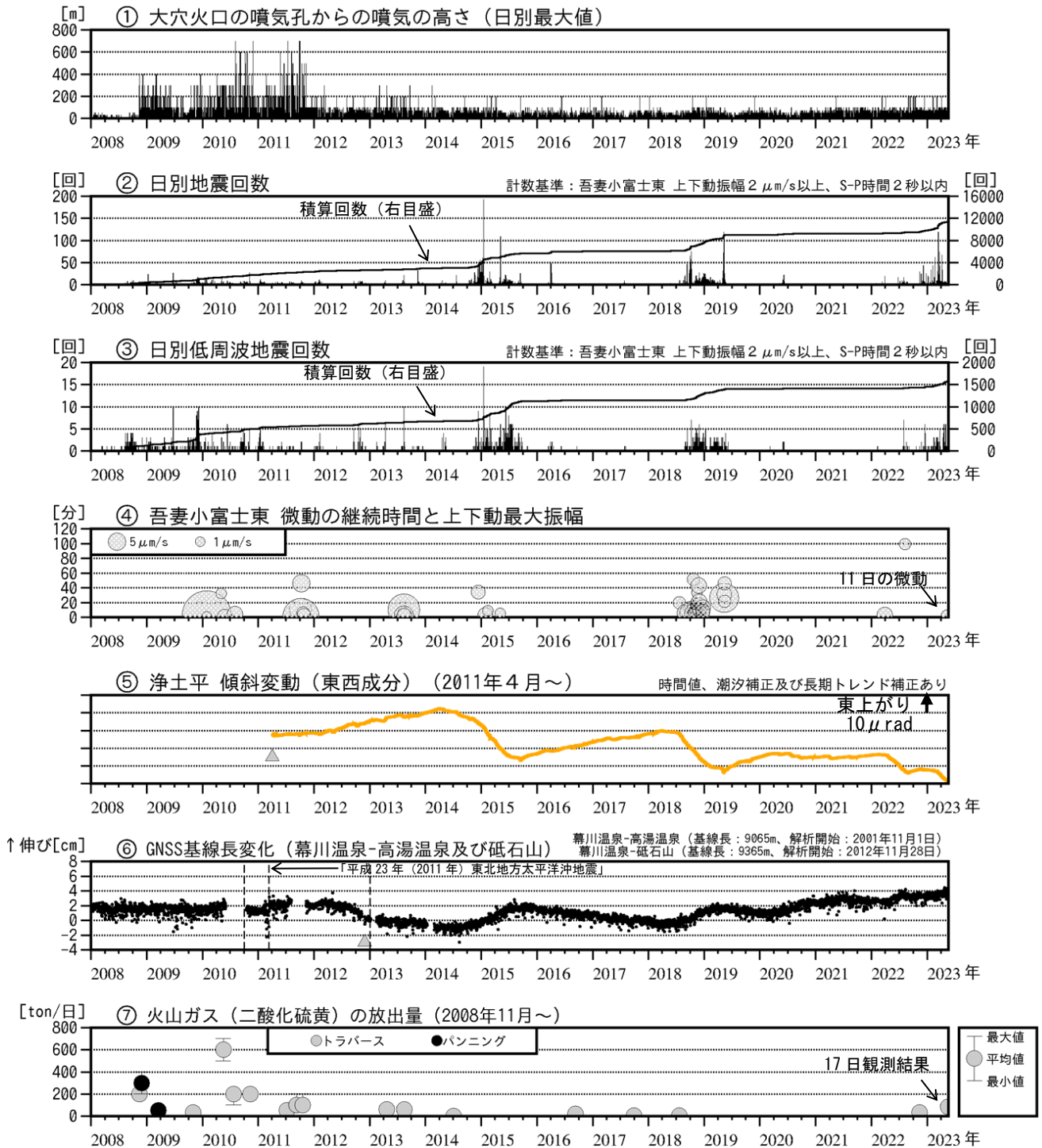


図5 吾妻山 火山活動経過図 (2008年1月～2023年5月19日15時)

- ・⑥は図7のGNSS基線③に対応しています。
- ・⑥は「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・⑥高湯温泉観測点は約300m東に位置する砥石山観測点に移設しました。
- ・⑥GNSS基線長は2010年10月及び2013年1月に解析方法を変更しています。
- ・▲：解析開始を示します。

火山性微動は11日に1回発生して以降は観測されておらず、火山性地震の増加も認められていません。

17日に実施した現地調査では、火山ガスの放出量は1日あたり約80トンと、前回(2022年11月10日)の約30トンと比べてやや増加しました。

過去の活動状況についてはこれまでに発表した火山活動解説資料をご覧ください。  
[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact\\_vol.php?id=213](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact_vol.php?id=213)

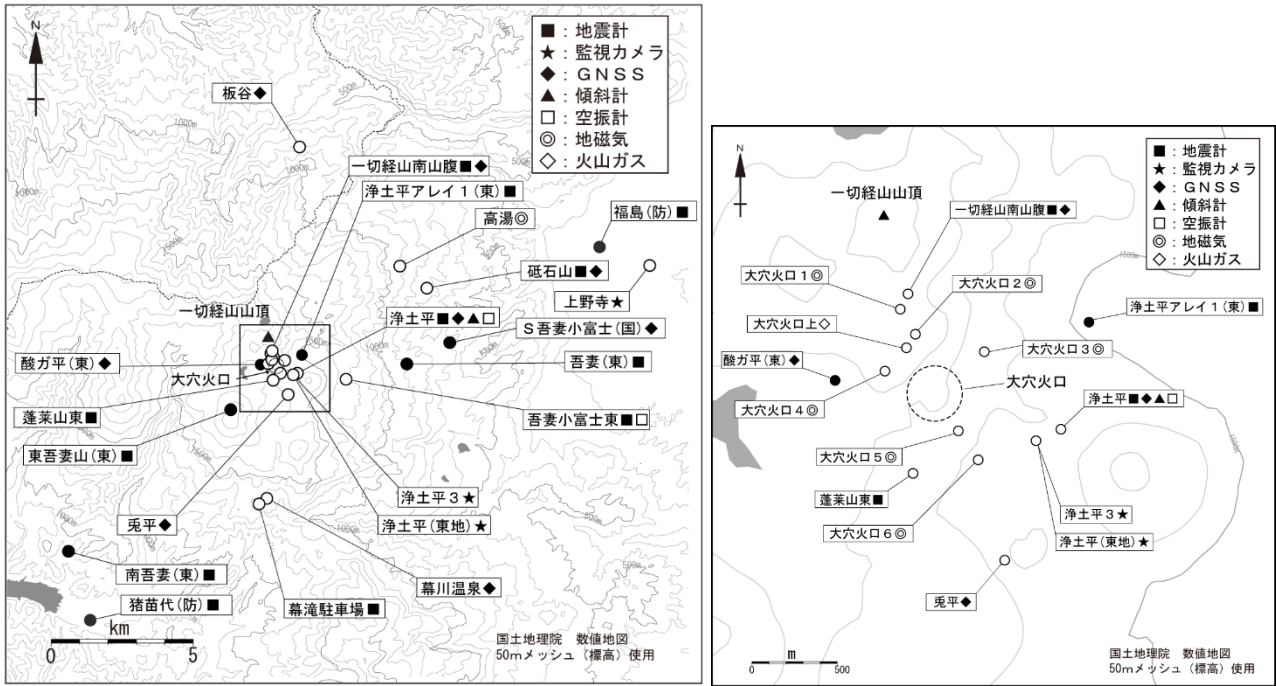


図6 吾妻山 観測点配置図

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(東地)：東北地方整備局 (国)：国土地理院 (東)：東北大学 (防)：防災科学技術研究所  
左図の四角囲みは右図の表示範囲を示しています。

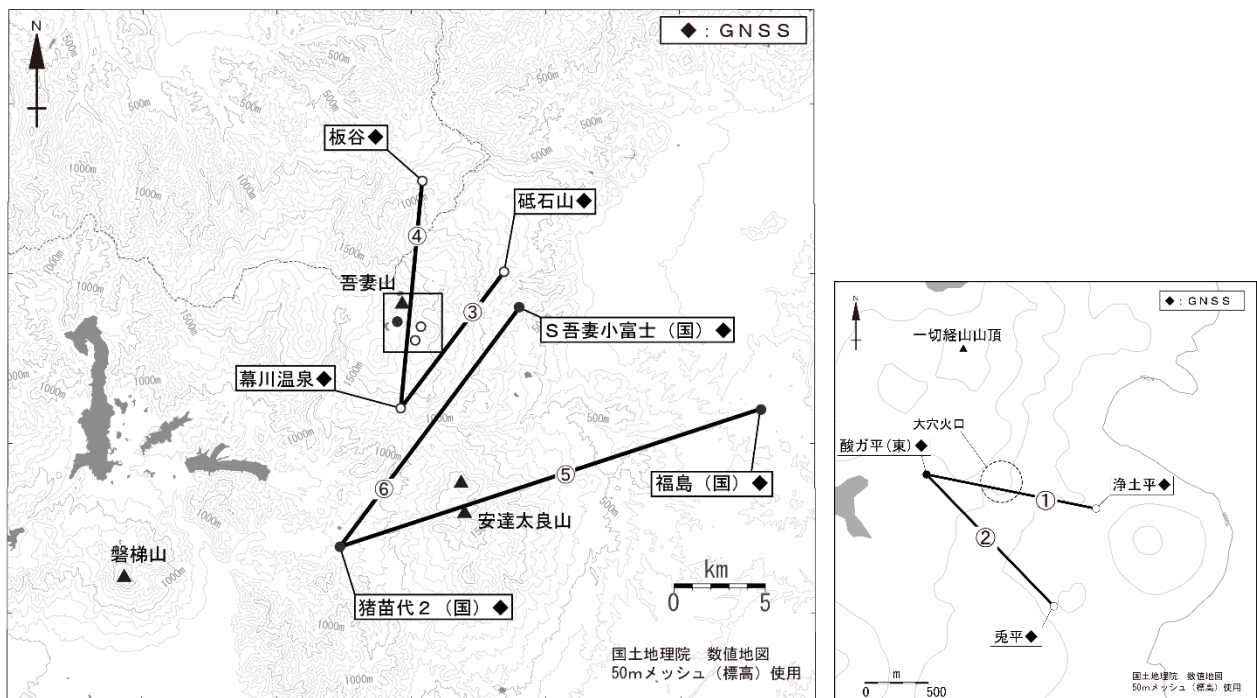


図7 吾妻山 GNSS 観測基線図

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
左図の四角囲みは右図の表示範囲を示しています。 (国)：国土地理院 (東)：東北大学